

(B) 処理要求電文送信時の SMTP コマンドシーケンス

利用者システムからセンター側サーバに処理要求電文を送信する際(1 コネクション2 電文送信例)の SMTP コマンドレベルでのシーケンスを、図 4-3-10 に示す。また、各コマンドの説明を表 4-3-13 に示す。

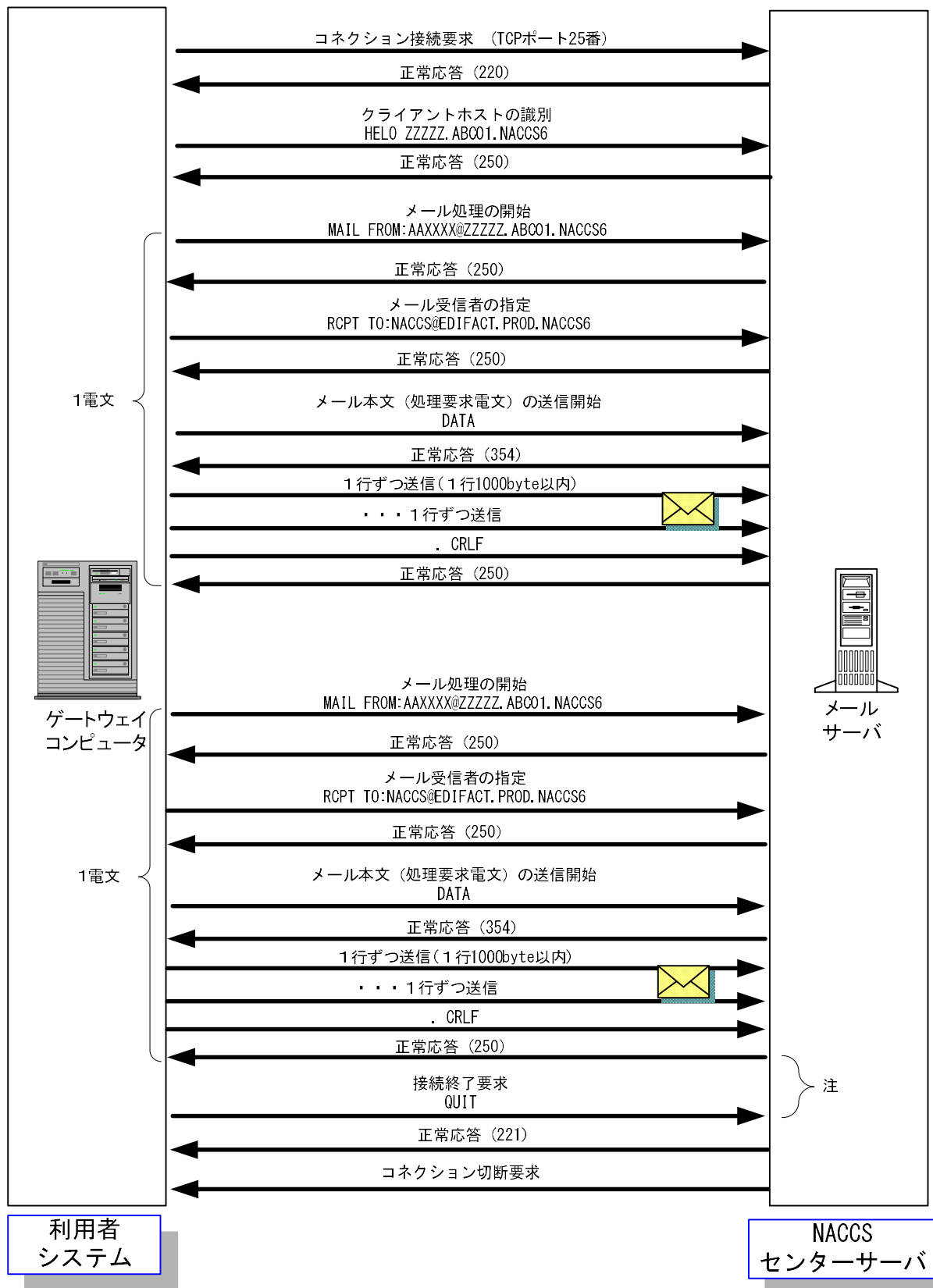


図 4-3-10 SMTP による処理要求電文の送信シーケンス (1 コネクション2 電文送信例)

表 4-3-13 SMTP 送信時のコマンド説明

項番	コマンド等	説明
1	コネクション接続要求	利用者は、センター側メールサーバの 25 番ポートに対してコネクション接続要求を行うこと。 センター側メールサーバは、正常応答として応答コード 220 を返す。 センター側メールサーバの IP アドレスは、NACCS センターの DNS に問い合わせを行うことで取得できる。
2	HELO ドメイン名	利用者は、利用者システム側のドメイン名を設定してコマンドを実行すること。センター側メールサーバは、サーバが利用可能な場合、SMTP コネクションを開始する。 センター側メールサーバは、正常応答として応答コード 250 を返す。 利用者システム側のドメイン名は、事前に NACCS センターが通知する。
3	MAIL FROM: メールアドレス	利用者は、利用者側メールアドレスを設定してコマンドを実行すること。 センター側メールサーバは、正常応答として応答コード 250 を返す。 利用者側メールアドレスは、事前に NACCS センターが通知する。
4	RCPT TO: メールアドレス	利用者は、NACCS センターサーバ側メールアドレス (NACCS@EDIFACT.PROD.NACCS6) を設定してコマンドを実行すること。 センター側サーバは正常応答として応答コード 250 を返す。
5	DATA	利用者は処理要求電文の送信開始コマンドを実行すること。 センター側メールサーバは、正常応答として応答コード 354 を返す。 この後、利用者は、電文(通信プロトコルヘッダーを含む)を送信することが可能となる。
6	メール本文の送信	利用者は、NACCS の業務仕様に則り処理要求電文を送信する。 1 つの処理要求電文の終端には、.(ドット)のみの行を送信すること。 終端を受信した後、センター側メールサーバは正常応答として応答コード 250 を返す。 (注 1) 1000 バイトごとに改行<CRLF>が必要となるが、NACCS の EDI 仕様では、1000 バイト以内に改行<CRLF>が入る仕様となっているため、特に意識する必要はない。 (注 2) SMTP では、電文の終端を<CRLF>.<CRLF>で認識するため、電文の途中に「.」が先頭に位置する行がある場合、利用者システムでダミーの「.」をその直前に付加すること。センター側メールサーバでは、ダミーの「.」を削除してメイン処理部に引き渡す。
7	RSET	利用者が本コマンドを実行すると、HELO 直後の状態に戻る。 センター側メールサーバは、正常応答として応答コード 250 を返す。 (本コマンドは、正常時には実行する必要は無い。)
8	QUIT	利用者は、SMTP のコネクションを終了する。 センター側メールサーバは、正常応答として応答コード 221 を返す。

(注) 図 4-3-10 で全ての電文送信が完了した後 **2 分 4 時間**、利用者システムのゲートウェイコンピュータから QUIT コマンドを発行しない場合、センター側メールサーバでコネクションタイムアウトを発行し、強制的に接続切断を行う。このため、メール処理方式利用者はゲートウェイ接続の場合、全ての処理要求電文の送信が完了した時点で、QUIT コマンドを発行すること。

(注 1) SMTP の応答コードについて

各応答コード 3 桁の後ろには、任意の文字列が続くが、先頭 3 桁のみ参照すること。

例) HELO の応答

250 EDIFACT. PROD. NACCS6



応答コードのみ参照し、表 4-3-14 で示す対処を行うこと。

※理由: 後ろの文字列は NACCS センターサーバの仕様変更に伴い変更される可能性があるため。

(注 2) タイムアウト監視について

利用者システムは、センター側メールサーバやネットワークの障害などを検知できるよう、SMTP コネクションのタイムアウト監視を行うこと。

本仕様においては、同一コネクションで複数の電文送信を可能としており、SMTP コネクションのタイムアウト時間を規定することはできないため、利用者の運用方法にあわせて監視時間を定めること。